

平成 18 年度 大自然塾「鳩ノ巣フィールド」活動計画

鳩ノ巣連絡協議会

[はじめに - 活動のための現状認識 -]

平成 17 年度「活動報告書(別紙)」の通り、多摩の森・大自然塾「鳩ノ巣フィールド」活動は順調に推移しているが、現状の課題を整理すると

運営管理面

定例イベント運営体制の強化 さらなる指導者層の充実化
「鳩ノ巣連絡協議会」の体制強化 当事者意識のあるメンバーの獲得

フィールド活動面

「フィールド」への取組み
「作業部会」活動による指導者層の育成
参加ボランティアの固定と継続・拡大化
現フィールドの境界確定
自前作業用具の充実化
シカ食害対策の継続
蜂対策を含めた安全管理体制の継続強化

調査・データ収集面

調査と記録の継続推進
調査情報の活用

地元住民とのさらなる交流

上記の他、今後の活動展開における最大の課題は2年後の平成 20 年 3 月をもって、現主催者である東京都が本事業の打ち切りを確定していることにある。丸2年先のことはあるが、“自立”に向けた活動推進の運営体制の構築が必要になるため、18 年度においては、これをも包括した「計画案」として、以下を提出する。

[鳩ノ巣連絡協議会の体制]

関連団体:引き続き、樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会の2団体体制とするが、NPO 法人森づくりフォーラムとの連携のもとで、幅広く他団体および個人参加ボランティアの参加協力を求めていく。

運営方法:平成 17 年度に同じ。座長と事務局を置き、月1回の定例会における協議決定により運営する。なお、座長と事務局は関連団体者から任命するが、定例会参加者はこれにこだわらない。

出席者:関連 2 団体における現メンバー以外の出席者拡大に努める他、他団体・個人参加ボランティアの取り込みを図る。

[長期ビジョン・フィールドのあるべき姿・活動のあるべき姿・フィールドの将来像]

平成 16 年度に同じ。 * 2003.5.12 作成

長期ビジョン

委託された現在の鳩ノ巣・棚沢地区の森を「豊かな美しい森 = 多様性のある森」として創出し、奥多摩町の活性化に寄与することで、東京都「大自然塾」活動のモデル・フィールドとする。

フィールドのあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、将来の森の“姿”として以下を目指すものとする。

生物の多様性

資源の多様性

森林形態の多様性

活動のあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、市民ボランティアを含む多くの協力者とともに、以下を活動のあるべき“姿”として展開する。

活動メニューの多様性

森林施業の多様性

参加者の多様性

フィールドの現状認識と将来像

* 別紙資料 A「森林計画」参照。

[平成 18 年度活動計画]

1. 活動方針

「鳩ノ巣フィールドにおける森づくり活動“自立化”に向けた運営体制の基盤づくり」東京都の大自然塾事業の予算措置が平成 20 年 3 月までと決められている。これまでの運営団体への経費が消滅することで、自主的に運営資金を調達する必要性が生じる。よって「みどりの募金」「日本財団」その他の助成金に申請し、財源を広げるとともに、企業などからの依頼にも幅広く対応していく。

2. 活動の基本内容

- 2-1 月 1 回の「多摩の森・大自然塾」イベントの運営を柱とし、長期ビジョンのもとでの活動計画を実行する。
- 2-2 月 1 回の「鳩ノ巣連絡協議会」を開催し、定例のイベント運営の内容及び中長期ビジョンとの整合を図る。
- 2-3 関連 2 団体からの新たなる人材登用を含め、他団体及び個人参加ボランティアとの交流を促進し、イベント運営体制の強化を図る。

- 2-4 関連2団体は定例イベントとは別に、自主活動日を設け、目標とする作業計画の達成に努める。
- 2-5 地元住民との各種活動を通じた交流を促進するとともに、地元における林業文化の継承や新たな林業事業化の方向を共に考える基盤を作る。

3. 鳩ノ巣連絡協議会としての重点実施項目

3-1 活動自立化に向けた運営体制の構築

樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会の2団体を核にした運営スタッフ及びリーダーを増強するとともに、他団体及び個人参加ボランティアにも呼びかけて協議会の運営体制を強化する。また、「運営資金」確保のための方策を模索し、試行する。

3-2 各フィールドの将来像に基づいた作業計画の立案と実施

	現在	将来の姿	平成18年度計画
フィールド ^①	2000年に皆伐した跡地	落葉広葉樹林	・下刈り ・観察と記録
フィールド ^②	1999年に皆伐した跡地。 2000年3月に中間部にスギ・ヒノキを植樹	上部：落葉広葉樹 中間部：スギ・ヒノキの針葉樹 下部：花の咲く木を植樹	・下刈りを主とした保育作業 ・観察と記録
フィールド ^③	1994年に皆伐した後地	天然更新の2次林 林班区分して針葉・落葉のモザイク林を形成	・道づくり ・沢の整備 ・観察と記録
フィールド ^④	2002年に皆伐。 2003年3月に落葉広葉樹を植林	落葉樹林	・下刈りを主とした保育作業と残材整理 ・観察と記録
フィールド（1）	25年生のヒノキ林	美しく手入れのされたヒノキ林	・保育作業 ・観察と記録
フィールド（2）	スギ・ヒノキ林	美しく手入れのされた針葉樹林	・保育作業 ・観察と記録

* 詳細は別紙資料B「平成18年度フィールド別作業計画」参照。

3-3 「フィールド」の整備の促進

大きくは「除伐を促進して保残木の保護と林床内の埋蔵樹種を萌芽させ、植生種を増加させるエリア」と「遷移のままに天然下種更新を促進させるエリア」とに分け、さらに小さな林班のゾーニングを行い、それに基づいた境界に散策道や作業道を設置する。 * 別紙資料C「フィールド 施業計画」を参照。

3-4 「作業部会」による活動

17 年度に続き、定例イベントでは危険を伴う作業、またさらなる森づくりのために不可欠な作業を推進するとともに、将来に向けた「人づくり・後継者づくり」のため、連絡協議会として実施する。

活動日：2006.4 月～2007.3 月 毎月 1 回+追加不特定日

* 別紙資料 D 作業部会「作業計画表」を参照。

3 5 作業道具の自前提供

「みどりの募金」「の本財団」等の助成金を獲得し、作業道具の充実化を図る。

3-6 フィールド境界の確定と図面化

17 年度に引き続き、森づくりフォーラムに協力し、境界確定に努力する。

3-7 植生・資源調査の継続実施とデータ管理化

調査・データ管理の精度をあげるとともに、有用な蓄積を試みる。

4. イベントを通じた重点実施項目

4-1 参加ボランティアの固定 & 継続化及び拡大化

具体的には

常なる参加呼びかけ

「鳩ノ巣つうしん」の活用

鳩ノ巣フィールド“自立化”の PR

4-2 地元住民との共同作業活動の推進

スタッフ・参加ボランティアと地元住民との共同作業により、イベントを盛り上げるとともに、鳩ノ巣フィールド“自立化”の共通認識を醸成していく

4-3 他団体会員及び個人活動者を含むリーダー・スタッフ体制の構築

具体的には

17 年度に続き、イベント終了後の懇談会の開催

“自立化”に向けた「鳩ノ巣クラブ」立ち上げを試行する

4-4 フィールド案内ノウハウの蓄積と共有化

「東京の森の再生」を目標とする「大自然塾」活動の意義を含め、「中長期ビジョン」を前提とした「フィールド案内ノウハウ」をリーダー・スタッフ間で共有し、新案内人登用も意図しつつ、参加ボランティア及び地元住民に提供し続ける

4-5 シカ食害調査の実施

これまでの植栽樹のシカ食害を随時調査し、記録する

4-6 蜂対策を含めた安全管理体制の強化

5. フィールド別作業活動計画とスケジュール案

フィールド毎の月別作業計画のもとで、イベント展開を図る。

* 詳細は別紙資料 B「平成 17 年度フィールド別作業計画」を参照。

[計画達成上の留意点]

1. 森づくりフォーラムへの要望

他団体及び東京都(環境局)とのコミュニケーション強化の推進

2. 東京都環境局への要望

「大自然塾」事業継続の働きかけ

都民に対する広報活動の強化

以上 平成 18 年 5 月 12 日

作成: 鳩ノ巣連絡協議会座長 岡田誓 (森林インストラクター東京会)